

大学におけるレジャー教育・生涯スポーツとしてのヨット

—その指導計画について—

○上野直紀 (いわき明星大学)

鈴木秀雄 (関東学院大学)

五十嵐幸一 (いわき明星大学)

キーワード: レジャー教育、生涯スポーツ教育、ヨット教育、クルージング、航海術

I. はじめに

関西国際空港が開港される大阪湾を目指して、「環太平洋ヨットレース (関西空港開港記念)」がいよいよスタートした。このレースはそれぞれ異なった地点をスタートとする国際レースである。最遠隔地となるロサンゼルス (米国) は4月24日スタートとなりレースの火蓋が切って落とされた。ブリスベーン (オーストラリア) からは5月8日の出航、ウラジオストック (ロシア)、釜山 (韓国)、上海 (中国) からは5月中旬～下旬にかけてのスタートとなり、ゴール地点である大阪をアピールするヨットレースが始まった。このように今年もヨットレースへの関心が高まるイベントが目白押しである。

さて、いわゆるバブル経済崩壊後のレジャー活動を、潜在需要の視点からみたレジャー白書'94¹⁾によれば多様化するレジャー活動の中で、ヨット、モーターボート、サーフィン、ボードセーリング、スキューバー等の海洋性スポーツ型のマリノレクリエーションは、ヨット、モーターボートへの参加では男性全体で8.5%、10代では19.5%、20代が13.8%、30代が13.2%、40代では7.4%となっている。

余暇活動への参加消費の実態(1993年)²⁾ではヨットへの参加人口は110万人で参加率は1.1%の範囲に留まっいて、1992年度より30万人の減少、参加率では0.3%減少であり、一般的な普及という側面ではヨットをレジャーとして気軽に楽しむという領域には、いまだ達していない。

完全週休2日制の導入や有給休暇の取得促進による労働日数の減少、所定外労働時間の削減、フレックスタイム制の導入、さらにサマータイムの導入が論じられている中で更なる余暇時間の増大が予測され、平均寿命 (男子:76.25歳、8年連続世界一、女子:82.51歳、9年連続世界一) も長寿化の傾向となり、それに対応したライフスタイル (健康に配慮した生涯スポーツの導入) を確立することが必要になってくると考える。

II. 研究の目的

本研究では大学におけるレジャー教育・生涯スポーツ³⁾の展開にあたって、ヨット授業⁴⁾の指導計画 (海洋講座)⁵⁾の確立を目指すものである。

指導計画は海洋を媒体とした直接自然活動 (実施プログラム) として大自然の中で行われ、実施プログラムの有効利用とともに環境問題 (自然破壊や海洋汚染等) をも直視しようとするものである。

危機管理、チームワーク、問題解決、に対する効果的な学習への1つのアプローチとしてのクルージングでの貴重な体験は、将来に於いて様々な場面で生起するであろう事柄に対応できる能力を身につけるという目的から、指導計画に検討が加えられた。

ヨットカリキュラムの系統化およびコード化することによって、そこからヨット指導の課題抽出（課題解決）を図ることを目的とするものである。

授業形態（Ⅰ.事前講義（理論及び実習）、Ⅱ.帆走準備（出航準備及び機走）、Ⅲ.帆走中（セール展帆）、Ⅳ.停泊中（アンカーリング）、Ⅴ.着岸準備（収帆及び係留等））をどう効果的に指導したら良いかを検討するものである。

Ⅲ. 研究の方法

マリンプログラムを享受する立場に立った時、①授業計画の充実を図る上からも、②授業の展開からも、実施した授業内容から得た課題（問題意識）を総括的に抽出し、授業形態（Ⅰ.事前講義、Ⅱ.帆走準備、Ⅲ.帆走中、Ⅳ.停泊中、Ⅴ.着岸準備）を授業日程に従い、カリキュラムの系統化およびコード化を進め、整理することを主眼とした。

既実施プログラム（1986年～1993年）から課題抽出し、それらを検討し、カリキュラムの改訂、修正を加えた一つの“より良いヨット授業を行うための指導計画（授業形態）”は次の通りである（図1）。

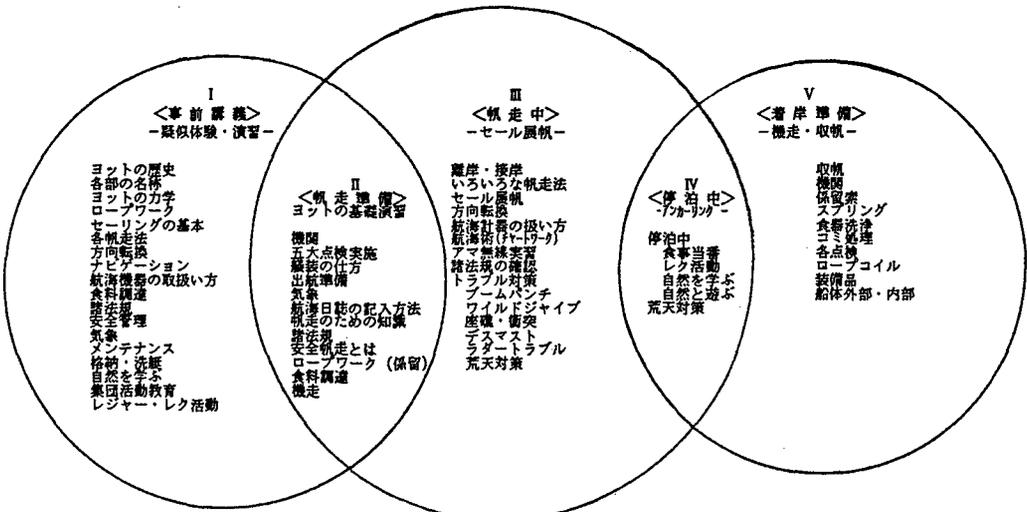


図1. 大学におけるレジャー教育・生涯スポーツとしてのヨット
-その指導計画について- <授業形態>

IV. 課題の認識

ヨット授業で履修学生に実施した授業形態で（Ⅰ.事前講義、Ⅱ.帆走準備、Ⅲ.帆走中、Ⅳ.停泊中、Ⅴ.着岸準備）を分類し、授業日程に従って、カリキュラムの系統化およびコード化を図り、プログラムを実行、課題抽出（課題解決）を図るデータが得られた。

＜Ⅰ.事前講義＞でのプログラム内容では、現実に乗船するであろうヨットへの実体験が全くないことからイメージのみの学習の為、各点検項目等において、より積極的な参加姿勢への指導が課題として得られた。

＜Ⅱ.帆走準備＞では、はじめてみるヨットの姿、装備品に驚き、又、膨大なヨット用語に不安を感じ、出航前には欠かせない日常体験でもある“五大点検”においてもチェック項目内容を理解するのに帆走直前までずれ込むことに関しての工夫が更に必要といえる。

＜Ⅲ.帆走中＞では、風向、風力に対していろいろな帆走方法を体験し、実体験により“ランニング”より“クローズドホールド”が風に対して最短コースとして目的地に向かうことを知らせることが大切な要素であり、“方向転換”では、“いつ、どこで、どのようにして”タック・ジャイブを実行すべきか・・・危険な状態で行った場合、自身の操船ミスがクルーを不安な場面に遭遇させることに気づき、安全な航海術（セーリング）を知ることなのである。油断のない使用である限り、各種航海計器（G. P. S.、レーダー、無線等）が目的地までの安全を守る必要不可欠な機器であることを知り、又、シーマンとして海洋知識を身につける必要性を知る努力を重ねさせる課題認識が重要であることは論を待たないところである。“チャートワーク（海図）”では、現在地確認の重大さを知り、コンパス、三角定規を十分使いこなすには、船内での船酔いとの闘いもあり、拘束されない自由社会の中で若者が自己統制する機会として貴重といえる。

＜Ⅳ.停泊中（アンカーリング中）＞は、楽しいレジャー・レクリエーション活動が中心であり、自然を知り、自然を学ぶ場でもあり、各自、興味、能力に従って、自然観察の好機であり、カリキュラムとしての工夫により環境教育・海洋教育としてのレクリエーション財を得ることが以後十分検討されるべきである。

＜Ⅴ.着岸準備＞は、係留索準備、船体内外メンテナンス点検、装備品チェック、自然保護意識（例：ゴミ持ち帰り）など全て“次回”をより楽しいクルージングにする為の作業により、海洋講座全体の振り返りができる機会を提供するカリキュラムの大切な領域の位置づけが大切である。

以上の内容がプログラム実行により課題抽出・課題認識を図るデータとして得られた。

V まとめ

本年で海洋講座としてのヨット授業も9年目となり、延べ528名が積極的に参加した4泊5日・24コースの実践である。各年度毎に実施プログラムを授業形態別に総括的検討を加え、課題抽出、課題解決、そして課題認識を図る上からもカリキュラムを階梯的に実施した。

事前講義でヨット授業の全体的な流れ、膨大なヨット用語、航海計画、諸帆走法、自然に対する対処の仕方を学ぶが、洋上体験では予想以上に“船酔い”に悩み、失望する

学生も出る。

反面、出航から展帆、タック、収帆、アンカーリング、洋上レジャー・レクリエーション活動、帰港、という一連の活動の中で自身のすべき内容を全てこなし、セーリングをした学生の達成度、満足感は筆舌に尽くし難い。

全てが自然との闘いの為、無風状態、強風状態、風向ベストの状態と、日々、天候との闘いである。どのようなプログラムであってもひとたび海が荒れると全てがそれに対応したプログラムへと必然的に動いていく。そこに自然への対応能力を身につける際立ったシーマンシップが生まれてくる。

ヨット授業は、人、波、風が一体となつて初めて目的を達成してくれるものである。

それを体験させてくれる生涯スポーツとしてのヨットは決して贅沢ではない。大学におけるレジャー教育（海洋講座）の貴重な部分であるといえる。

<引用文献>

- 1), 2) (財) 余暇開発センター編『レジャー白書' 94』
PP. 21~26 1994年
- 3) 鈴木 秀雄 「生涯スポーツの意味(The Meaning of Life Sports)」
『日本大学体育学研究』第25集 1991年3月
- 4) 上野 直紀・鈴木 秀雄「シーズンコース“ヨット授業”参加学生の意識調査」
第40回 日本体育学会 1989年10月
- 5) 上野 直紀・鈴木 秀雄「レジャー及び生涯スポーツとしての海洋講座」
第23回 日本レジャー・レクリエーション学会 1993年10月

<参考文献>

- 通産省産業政策局編 「ゆとり社会の基本構想」 1991年
中小企業庁小規模企業部サービス振興室編集 「海洋性レジャーのビジョン」
1993年
- (財) 日本海事広報協会「海洋性レクリエーションの現状と展望」 1993年
J・ルスマニア「The Annapolis Book of SEAMANSHIP」 鯨書房 1989年
海上保安庁 「平成5年度版 海上保安白書」 1993年
上野 直紀 「本学における新入生の体育・運動観の実態-1-」 明星大学研究
紀要第21号 人文学部 1985年
- 小島 敦夫 「YACHTING」 成美堂出版 1985年
鈴木 邦裕 「ヨットマンの航海術」 海文堂 1980年
土井 悦 「ヨット・モーターボート・クルーザー運用実務」 舵社 1983年
関根 久 「ヨット専科」 成山堂 1975年
関根 久 「クルーザー教室」 舵社 1979年
関根 久 「クルーザーのためのメンテナンス読本」 舵社 1985年
川島 正道 「ベストオブセールトリム -セールトリムの実践解説-」 舵社 1987年
大河原 明德 「ヨットマンのための天文航法」 舵社 1980年
中村 繁 「明日の天気わかる本、天気図の読み方、作り方」 舵社 1980年
中沢 弘 「結びの図鑑 PART 1, 2」 舵社 1980年